

うっしっしいー情報2022

2月市



豊岡農業改良普及センター

2月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が80万、雌が76万でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.912	718,740	2	0.962	615,450	7	689,229
丹波篠山	8	0.967	884,813	6	0.832	691,533	14	801,979
丹波	24	1.000	802,358	16	0.831	675,331	40	751,548
朝来	6	1.010	836,183	4	0.876	828,575	10	833,140
播磨	20	0.967	802,670	10	0.835	627,330	30	744,223
美方郡	38	0.954	774,718	26	0.891	914,862	64	831,652
豊岡	15	1.017	863,940	10	0.856	750,090	25	818,400
養父	15	0.932	827,567	8	0.835	755,563	23	802,522
摂津・神戸	12	0.902	762,117	14	0.829	701,879	26	729,681
県北C	9	0.941	729,911	-	-	-	9	729,911
市場全体	152	0.964	799,512	96	0.855	759,699	248	784,100

2月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	23	0.995	882,965	15	0.827	739,787	38	826,447
2	照和土井	15	0.995	776,820	12	0.921	844,067	27	806,707
3	芳悠土井	11	0.981	833,200	6	0.838	753,133	17	804,941
4	藤彦土井	20	0.997	809,490	14	0.841	775,029	34	795,300
5	山伸土井	7	0.947	778,643	3	0.962	833,800	10	795,190
	総計	152	0.964	799,512	96	0.855	759,699	248	784,100
6	忠味土井	20	0.959	772,640	10	0.864	793,100	30	779,460
7	丸春土井	7	0.939	825,000	5	0.863	681,560	12	765,233
8	丸池土井	19	0.896	781,637	9	0.828	695,811	28	754,050
9	照忠土井	6	0.980	819,867	6	0.804	661,100	12	740,483

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	A	A++	A++	A	A++	A++ → A+
2	照和土井	A+	A+	C → A	B → A	A	A+
3	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++
4	藤彦土井	A++	A++ → A+	A → B	D	C → D	A+
5	山伸土井	A → A+	A++	C	A+	A+	A+ → A
6	忠味土井	B	A+	A	A → B	A+	A++ → A+
7	丸春土井	B → C	A	B → C	B	A	A++
8	丸池土井	D → C	A+++ → A++	D	B	A++	A++
9	照忠土井	B → C	A++	A	A+	A++	A

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和4年2月現在)

但馬牛の“育ち盛り”はいつでしょう？

～但馬牛標準発育曲線の解析から～

▷はじめに

但馬牛が育成期において一番大きくなる時期はいつでしょう？今回は2016年に改訂された但馬牛標準発育曲線を解析し、子牛が一番発育する時期について考えてみたいと思います。もちろん一番大きくなる時期には、栄養バランスを考慮した飼料の給与が必要になります。その時期の飼料給与内容についても考えてみましょう。

▷但馬牛が一番大きくなる時期は？

但馬牛標準発育曲線は、体重・体高・胸囲・腹囲の4つがありますが、今回は骨格（フレームサイズ）に与える影響が大きい体高と胸囲について、発育上限値を例に比較してみましょう。

体高について見てみると、雌子牛では、3-4ヶ月齢で最も発育量が多く1日あたりの発育量が0.17cm/日ですが、その後発育量は減少し続け、出荷直前の7-8ヶ月齢では3-4ヶ月齢と比較して**47%減少**し、0.09cm/日となります（図1）。去勢子牛の体高発育量も同様に0.19cm/日から0.11cm/日へと**41%減少**します（図2）。

胸囲も体高と同様に、雌子牛では0.31cm/日から0.21cm/日へ**35%減少**します（図3）。去勢子牛では0.34cm/日から0.22cm/日へ**34%減少**します（図4）。

以上のことから、発育良好とされる発育上限値の個体であっても、発育のピークは3～4ヶ月齢で、出荷直前には大きく発育量が減少することがわかります。

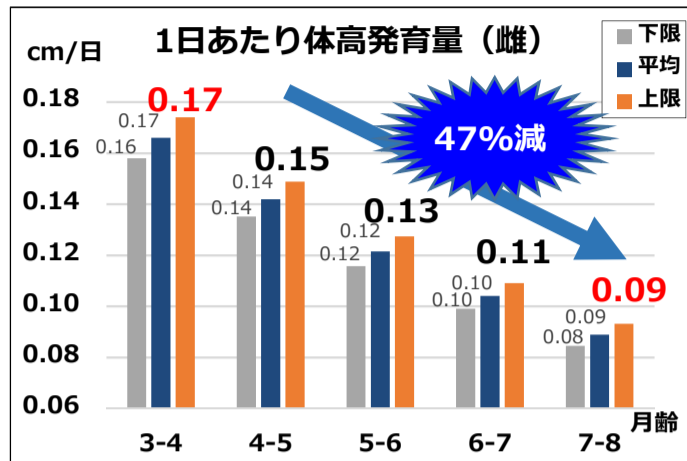


図1. 雌子牛の月齢別体高発育量

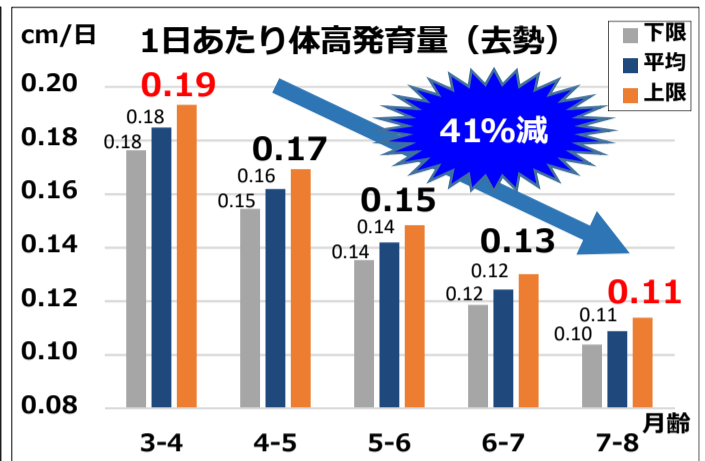


図2. 去勢子牛の月齢別体高発育量

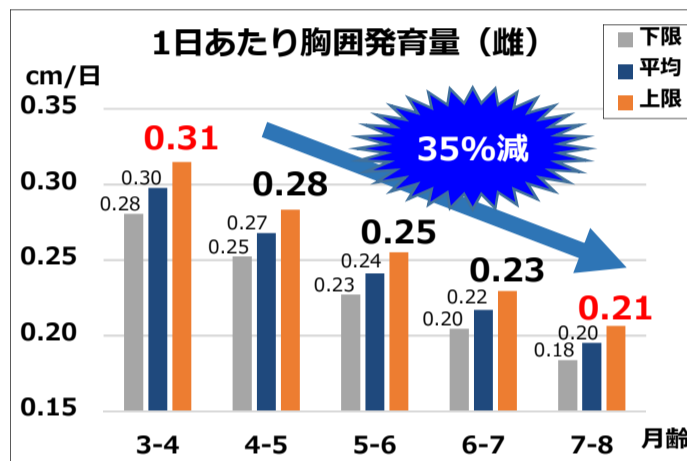


図3. 雌子牛の月齢別胸囲発育量

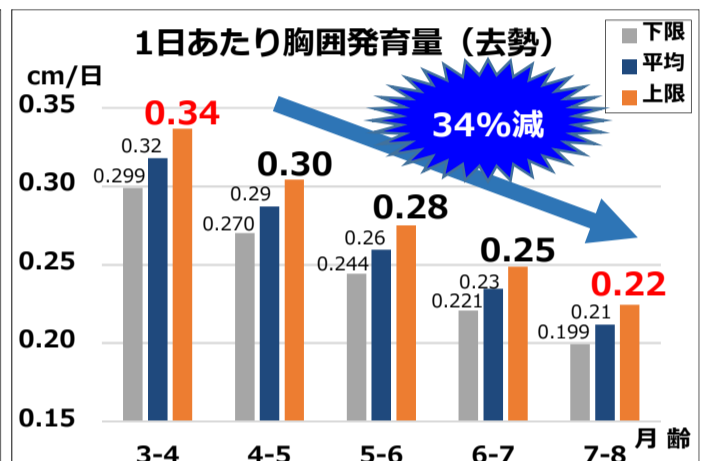


図4. 去勢子牛の月齢別胸囲発育量

▷なぜ月齢が進むと成長が鈍化するのでしょうか？

成長に関わるホルモンとして、一般的に成長ホルモンが良く知られています。ウシも、成長ホルモンの分泌により、筋肉の発達や、骨の成長を促します。黒毛和種雌子牛では、成長ホルモンの分泌量が、3ヶ月齢で最大となり、6ヶ月齢を過ぎると、急激に減少します（図5）。このことは、先ほどお伝えした発育量の変化と一致します。つまり、成長ホルモンが多く分泌される期間は6ヶ月齢までと限定的であり、“育ち盛り”となるこの時期の発育量を確保するためには、それに見合った飼料給与を行う必要があります。

一方、摂取した飼料を脂肪として蓄積する働きのあるインスリンは、6ヶ月齢以降に分泌量が増えます（図6）。このため出荷直前の7～8ヶ月齢に過剰に給与した飼料は、子牛の発育ではなく脂肪蓄積に回されやすくなり、過肥や尾枕の原因となります。

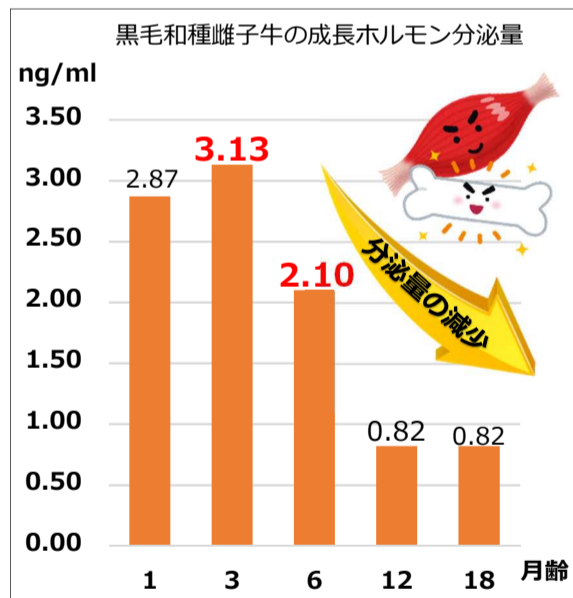


図5. 成長ホルモン分泌量の推移

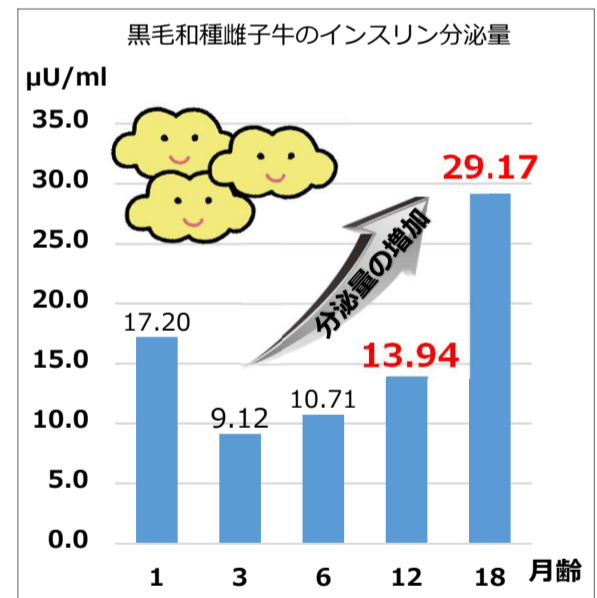


図6. インスリン分泌量の推移

育成期および泌乳期における黒毛和種牛の内分泌機能に関する研究データの一部を引用（2004 新宮）

▷“育ち盛り”に与えられる飼料は？

3ヶ月齢までは、離乳に向けて粗タンパク質20%の人工乳（スターター）が給与されていますが、“育ち盛り”となる3～6ヶ月齢の子牛には、一般的に粗タンパク質（CP）16%の配合飼料が給与されています（表）。このままでは、この時期に増加する発育量に対し、給与する粗タンパク質が不足することが考えられます。発育量を確保するために、適宜、加熱大豆製品などを給与し、不足を補いましょう。一方、発育量が低下する7～8ヶ月齢にエネルギー（TDN）70%の配合飼料を多給すると、発育に使われなかったエネルギーは脂肪蓄積へと回されます。出荷前となるこの時期は、配合飼料を増給するのではなく、良質粗飼料を飽食させ、過肥でなく発育の良い子牛づくりに努めましょう。

表. 人工乳と子牛用配合飼料の一般的な飼料成分（乾物中）

飼料名	一般的な飼料成分（乾物中）	
	粗タンパク質(CP)	エネルギー (TDN)
	%	
人工乳（スターター）	20	75
子牛用配合飼料	16	70

- ・但馬牛の育ち盛りは**3～6ヶ月齢**！発育に必要となる**タンパク質**を十分に与えましょう！
- ・**7ヶ月齢**を超えての配合飼料増給は、**メタボ（過肥）**の原因！**良質粗飼料**を多給しましょう！